

教室復帰を目指す不登校支援の取組について

不登校児童・生徒の状況

10月までに全学年に別室の利用があった。当該児童は中学年であり、特別支援教室を週1回利用している。低学年の時から不登校傾向にあり、教室での授業参加が難しく半分以上、保健室登校であった。クラス替えはあったが、状況はあまり変化していない。しかし、教室で過ごせるようにしたいという気持ちはある。

具体的な取組

○特別支援委員会等の実施

管理職と特別支援教育コーディネーター、担任、学年主任、巡回指導教員、養護教諭、SC等で特別支援委員会を年に6回開き、当該児童の様子について情報共有・分析し、支援方針を協議した。

○OSCや養護教諭、SSWとの連携

当該児童が困りごとを相談しやすい環境づくりに努めた。SCが週3日、学校に常駐しているので、1対1の面談を通して、当該児童に寄り添った支援ができるようにした。また、保健室登校の際は養護教諭との情報共有を行い、よりよい支援を工夫した。更に、児童・保護者との連携の際には、福祉の専門家であるSSWとも連携することができた。

○不登校児童の居場所づくり

当該児童が校内別室利用を希望した際は、好きな絵を描くなどリフレッシュさせたり、安心して過ごせたりするような場所となるように別室環境を整えた。

休み時間を使い、校内別室指導支援員と絵を描く楽しみを共有する等し、エネルギーを充電して、別室で安心して過ごせるようにすることや教室に向かう意欲につなげることができた。



○保護者面談の実施

担任と保護者とで面談を行い、当該児童の支援方針の意向を確認した。担任とは別に、特別支援教室の巡回指導教員と保護者とで面談を行い、情報収集や支援方針の確認等を行い、校内で情報を共有し、別室での対応に生かした。

成果

チーム支援の結果、「不登校児童・生徒の状況」で報告した児童は、昨年度より登校日数は増え、保健室や別室登校ではなく、教室に入室できる日も増えた。昨年度の7月の登校日数は13日中4日、今年度の7月は13日中11日登校できた。

課題

今後の支援として、登校時は「教室で過ごす」ことを目標に、チーム支援を継続していく。

校内別室を活用した不登校対策について

不登校児童・生徒の状況

小学生の時から保健室登校をしている生徒や昨年度の途中から不登校傾向であった生徒が継続的に利用している。また、利用の形態は、毎日登校している生徒や担任と約束をして週一回のみ登校している生徒などがおり様々である。

具体的な取組

【校内別室の設置】

個別、小集団等の活動に対応できるように机の配置を工夫した。その日の活動の内容や生徒の状態に合わせ、座席を選ぶことができるようになっている。



【心地よい居場所づくり】

別室の名称を「(学校に由来のある花の名称) ルーム」とし、全校に周知することで、利用しやすく、開かれた場所になるように心がけた。また、校内別室指導支援員との相談だけでなく、絵を描く、折り紙、ボードゲーム等、興味関心の高いことに主体的に取り組むことができるようにしている。

教室にいる生徒と別室で交流ができるよう時程等を工夫することにより、コミュニケーションの機会が増えた。

【学習支援】

オンライン授業の環境を整えることにより、別室でも ICT 機器を活用して授業を受けられるようにしている。また、個々にあった教材を作成することで、生徒の意欲を引き出せるようにした。

【チーム支援】

週に1回行われる校内委員会・生活指導部会で、担任・教育相談担当教諭・スクールカウンセラーと情報共有を行っている。生徒の状況を共有することで、個々の生徒の対応のあり方について検討している。

成果

利用している生徒の登校状況が昨年度に比べかなり改善している。また、登校した際の様子にも変化が見られる生徒もおり、行事や学年・学級での活動に、他の生徒と一緒に参加することができるようになった生徒もいる。

課題

継続して別室登校している一方、教室に入って授業参加できていない生徒に対しての働きかけが課題である。

一人一人の生徒に合わせて、より効果的な支援をしていく必要がある。そのために、対象生徒の支援シート等を作成し、状況を的確に把握できるようするとともに、中・長期的な目標を設定したい。

校内別室での取り組みについて

不登校児童・生徒の状況

4月から新たに別室が設置されて以降、徐々に利用者が増え、定期利用・一時的な利用を含め、現在約 10 名が別室を利用している。利用者は、固定曜日に来室する児童や、疲れてしまったとき、教室に行きづらいときに利用する児童など様々である。

具体的な取組

別室で行っていること

別室の利用案内のパンフレットを作成し、不登校児童の家庭に案内した。別室では主に、学校内でできる範囲の児童が好きなこと・興味があることを一緒に行いながら話をしたり、その様子を見守ったりしている。また、学習への意欲を高めるためにトランプを用いた計算要素のあるゲームや、しりとりなどを取り入れ、遊びながら楽しく学ぶことが出来るように工夫をしている。

不登校対策委員会の設置

不登校対策教員を中心とし、管理職、SC、SSW、校内別室指導支援員で構成された不登校対策委員会を昨年度より設置している。月に 2 回行っている会議では、長期欠席傾向である児童の現状把握と課題について検討し、今後の支援方針について共通理解を図っている。

成果

昨年度不安のため長期欠席となっていた児童数名もストレスなく別室を利用しており、学校に登校する日数が増加している。また、必要に応じて外部の民間機関との連携を行っている。

オンライン不登校支援サービスの活用

区で連携しているオンラインの不登校支援サービスを不登校児童の家庭に案内し、現在希望した児童 2 名が継続して利用している。利用している児童は、「自分で授業を選べるところが楽しい。」と話している。

今後は、校内別室でも利用することができるよう調整していく予定である。

不登校対応の記録作成、別室環境の工夫

不登校対策委員会を中心に、別室を利用している児童の登校支援計画を作成している。別室を利用した日の対応記録や、相談室への来室日、放課後に登校した日の状況等を確認できるようにしている。また、別室にて、少しでも、リラックスできるように、ぬいぐるみを置くなど環境の工夫をした。



課題

別室の利用を開始するに当たって、不登校児童の状況によっては、他児がいると緊張してしまったり、不安になってしまったりする場合がありますので、パーテンション等の工夫していきたい。

校内居場所（別室）について

不登校児童・生徒の状況

対象となる生徒は各学年、各学級に在籍しており、不登校の理由も個別様々で、学校、家庭、自分自身などの問題を抱えている。全く登校できていない、教室に入れない、一部入れるなど、対象生徒のニーズに応え心の安定と学習の定着、学校生活とのかかわりをもつように別室を設置し、学びの機会を保証している。

具体的な取組

支援会議の運営

毎週木曜日に実施し、各学年の対象生徒、保護者の現状の確認をし、有効な支援ができるよう管理職や特別支援教育コーディネーター、巡回指導教員、特別支援教育担当指導員など交えて、協議、情報を共有し学校全体でサポートする仕組みを作っている。

個に応じた学びの場

別室を利用し教室以外でも安心して学ぶことができる居場所を提供している。教室に入れない生徒へのオンラインを活用した授業参加を支援し、一部の授業だけでも教室で他の生徒と一緒に参加できるようにスケジュールやタブレット端末の操作等のサポート、調整をしている。

SC・SSWとの連携

SC・SSWと連携し生徒、保護者に寄り添い、不登校生徒の早期対応とサポートを実施している。連携を図る中、対象生徒が、校内の居場所（別室）につながるよう、役割を分担するなどし、段階的なサポートをしながら登校に向けてリズムを作っている。

環境整備

利用する生徒にとって、多様な学びの場や居場所を作れるように、大テーブルや、パーテーション、個別ブースの設置をしている。また、給食も食べられるよう配慮し、教室まで給食を取りに行くこともできるようになった。



成果

学校全体で支援することで生徒は安心して登校、学べる居場所を活用し、週1回でも登校するという習慣が身に付いてきた。

学びたいという意欲だけでなく学校での生活をもちたいという意欲を引き出すことができた。

課題

個々に応じた学びの場として、学校から気持ちが離れないように、多様なケースに、丁寧に対応していくこと。また、数年間不登校が継続している生徒への支援が課題である。

別室対応が必要な生徒への支援について

不登校児童・生徒の状況

対象生徒は、登校はしているものの、学業不振や対人不安などから教室での学習が難しい生徒や、長期間不登校状態が続いており、週に数回スクールカウンセラーの面談を受けている生徒など様々である。生徒により状況が異なり、不登校の要因も一様ではないため、一人一人に合わせた対応をしている。

具体的な取組

○校内に居場所の設置

毎日 9:40~14:15 に開設し、校内別室指導支援員を 1 名配置している。室内にはパーテーションを設置し、人目を気にせず学習に取り組める環境を整えている。



○生徒本人・保護者の意向の確認

書面や面談などを通して、利用目的や過ごし方など生徒本人や保護者の意向を確認している。その意向を校内で共有し、チームで支援できる体制を整えている。

また、登校時間や日数など、生徒のペースに合わせて無理のない範囲で設定している。

○オンライン授業

学習意欲はあるものの、人間関係の不安などから教室で授業を受けることが難しい生徒に対しては、希望に応じて別室にてオンライン授業を行っている。それにより、生徒の学習の遅れに対する不安を和らげ、課題の提出などもできるようになった。

○生徒一人一人に合わせた過ごし方

学習に取り組むだけでなく、図書や国旗カードなどの備品を用意しており、生徒の状況や興味に合わせた過ごし方ができる環境づくりを行っている。

校内別室指導支援員との活動を通して、コミュニケーション力の向上も図っている。

成果

生徒にアンケートを取ったところ、全員が、別室があって良かったと回答し、「話を聞いてくれる先生がいる」、「学級に入るのが不安な時でも別室で勉強ができる」などの声が聞かれた。別室対応により、登校日数が増えた生徒や、学習意欲が高まった生徒も見られた。

課題

別室があるが、まだ不登校状況の生徒もいるので、学校生活に不安がある生徒にとって、別室が更に安心して過ごせる居場所となるための工夫を検討していく必要がある。